

ぶらり散歩 「お彼岸」

(2022. 09. 23)

お彼岸に寺田縄近郊の散歩にでかけました。

収穫を迎えた水田は、秋色が一面に広がります。「金田」という地域の命名に納得です。また、あちらこちらには、赤色、白色の彼岸花が咲いていました。

さて彼岸とは、「暑さ寒さも彼岸まで」と云われます。彼岸とは、一年で春秋の2回あります。この期を境に、夏の暑さ、冬の寒さから別れを告げる目安となる時期です。今年の秋の彼岸も謂れの通り、9月21日はこれまでになく「涼風の渡る日」で、晴天でしたが長袖が必要、との声もちらほら聞こえた一日でした。季節は、真実を伝えるのでしょうか？

お彼岸の日程は、国立天文台が春分の日、秋分の日を決定し、前年の2月に「官報」をもって通知します。この決定に基づいて、春分・秋分の日的前後3日間をお彼岸とする習俗、風習があります。

今年の秋のお彼岸は、彼岸の入り 9月20日(火)。彼岸の中日(ちゅうにち) 23日(金・秋分の日)。彼岸の開け 26日(月)の7日間です。

お彼岸に行われる行事は、中日を中心として、ご先祖様への感謝の意味を込めた「お墓参り」、「仏壇・仏具のお掃除」「お供え物」などの供養を行うのが習わしとなっています。

彼岸とは、サンスクリット語で「悟りの世界を」意味する言葉です。語源はパーラミター(波羅蜜多)の韓語訳「到彼岸(とうひがん)」を訳した言葉で「悟りを開く」「成就する」との意味があります。彼岸とは、向岸のことで「三途の川」を渡った所には「仏様の世界」、「悟りが開かれた世界」で、こちらは「此岸」と、仏教界では呼ばれています。



金田地区の水田です。たわわに実った稲穂がわれわれを迎えてくれます。

今のところ、台風の影響もなく、倒れてしまう稲はありません。

豊作の予感がしています。

刈り入れには、大型のコンバインが作業します。

畦道の彼岸花（曼珠沙華・まんじゅしゃげ）と稲穂



彼岸花は、名前の通りお彼岸前後、一斉に開花します。



側溝淵の僅かな土に咲く「ひまわり」です。

「われ強し」と声高に主張しているように見えませんか？

その姿に元気をもらいます。 「がんばり通せ、ひまわり」